

■白鳥庫吉 東洋史学者。幅広い学識と厳密な史料批判で、現代に至る多くの後進を指導し、〔東洋文庫〕の育成に努めた。

しらとりくらきち

薩摩藩士密航1865＝ 上総国長柄郡(茂原市)で、農業白鳥嘉一郎の次男に生まれる。

大政奉還・・1867＝ 2歳：

明治維新・・1868＝ 3歳：

学問のすすめ1872＝ 7歳：この年、学制が頒布され、

明治6年政変 1873＝ 8歳：小学校に入学。

佐賀の乱・・1874＝ 9歳：

開設されたばかりの千葉中学校に入学し、

明治14年政変1881＝16歳：

那珂通世らの教えを受け、

岩倉具視没・1883＝18歳：

首席で卒業。東京大学予備門・第一高等学校を経て、

国民之友始・1887＝22歳：この年設置された帝国大学文科大学史学科に入学、
唯一人の教師ドイツ人のリースから西洋史の教えを受ける。

帝国憲法発布1889＝24歳：

帝国議会始・1890＝25歳：卒業するとともに学習院教授に就任し、学則改正で東洋史研究に取り組むようになる。

大本教・・・1892＝27歳：

日清戦争始・1894＝29歳：「檀君考」を皮切りに相次いで朝鮮の古代史の研究を行い、中央アジアから西アジアへと領域を広げる。

八幡製鉄始・1897＝32歳：「西洋歴史」。この年、漢学科のなかに史部が置かれて、初めて東洋史部門が登場。

Bushidou・・1899＝34歳：*ローマで開催された国際東洋学会議にドイツ語で論文を提出、日本の東洋史研究の成果がヨーロッパに
紹介される嚆矢となった。

ピアノ国産化・1900＝35歳：文学博士。

田中正造直訴1901＝36歳：歴史学研究のため、ドイツ・ロシアへ留学、

日比谷公園・1903＝38歳：帰国。

日露戦争始・1904＝39歳：この年支那史学科として正式に分離されたのに伴い、東京帝国大学文科大学教授を兼ね、

日露戦争終・1905＝40歳：もっぱら漢・魏・六朝の西域史、塞外民族文化史、満鮮上代史等を講じる一方、学会設立に情熱を燃やし、

韓国反日暴動1907＝42歳：東洋協会に学術調査部が設置される。また、満鉄総裁後藤新平に働きかけて、

アサヒ' 創刊・1908＝43歳：東京支社に満鮮歴史地理調査室を設置、その活動を自ら主宰する。

韓国併合・・1910＝45歳：東洋史学科と改称される。

大逆事件判決1911＝46歳：*この年から東京帝国大学教授を本官とし、学習院教授は兼任となる。東洋協会から〔東洋学報〕を発刊、最も
権威ある東洋学術誌として外国に知られ、現在も発行が続く。

明治天皇没・1912＝47歳：

大正政変・・1913＝48歳：「満洲歴史地理調査報告」監修。「朝鮮歴史地理」。

第一次大戦始1914＝49歳：東宮御学問所御用掛を拝命。満鮮歴史地理調査室が閉鎖になると、東京帝大文学部で事業を継承。

ロシア革命・1917＝52歳：三菱財閥岩崎久弥の女婿で同郷の親友木内重四郎を介して働きかけ、岩崎がモリソン文庫を購入。

ベトナム条約・1919＝54歳：「室韋考」。帝国学士院会員。

大暴落・・・1920＝55歳：御用掛を免じられる。

原敬首相暗殺1921＝56歳：学習院教授を退官。

水平社結成・1922＝57歳：「邪馬台国について」。欧米諸国の視察に出、

関東大震災・1923＝58歳：帰国。

護憲三派圧勝1924＝59歳：*モリソン文庫が財団法人化された東洋文庫の開設とともに理事となり、以後終生その育成に尽力する。

治安維持法・1925＝60歳：定年で東京帝国大学教授も退官。

共産党事件・1928＝63歳：

満州事変・・1931＝66歳：

帝人疑獄事件1934＝69歳：日本民族学会が設立され、理事長。

日中戦争始・1937＝72歳：

晩年は病臥するも、なお口述で弟子に概要を指示して論文を発表。

日米開戦・・1941＝76歳：

・・・・・1942＝77歳：没した。

明治以後現代にいたるまで東洋史学者の多くが彼の指導を受け、没後も「西域史研究」上下「卑弥呼問題の解決」上下「神代史の新研究」などが次々と刊行された。

刀水書房「20世紀の歴史家たち1」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、